

異常な行動

識別番号	年齢 数値	年齢 単位	性別	PT名称	タミフル 服用時刻	異常な行動発現時刻	就寝中か否か (就寝中:○、就寝 中じゃない:×)	覚醒直 後に発現	就寝中の場合、 就寝時刻から発 現までの時間	回復までの 時間	一眠りして 完全回復	体温	患者の記憶	睡眠覚醒症 等の既往	睡眠覚醒症 等の家族歴	光に対する 反応	他剤による 「異常な行 動」の副作 用歴	異常な行動に 関する既往歴	異常な行動の具体的な詳細 (例:幻覚については具体的に何が見えたか?本人が幻覚を見たのか、 親が幻覚を見ていたよと言っているのか?)	旧資料No			
30	B06025518	6	年	女性	意識レベルの低下	2007/2/27	昼食後	2007/2/27	15:00、17:00、 21:30	○	Yes	約3時間、約2時 間、約45分	9時間	Yes	発熱持続	No	No	—	No	No	無	2007/2/27 (10:19)朝3時からの高熱、倦怠感、関節痛等を主訴に外来受診。インフルエンザ迅速法ではA・Bともに陰性だが、母親の希望もありタミフル等を処方後帰宅。(昼食後)タミフル45mg×1回分内服し自宅でソファで就寝。(15:00)併用薬も多いがタミフル内服3~4時間後、意識障害発現。父がソファからベッドへ移動する様に促し移動する時、最初の独り言を話していたが、その後ベッドで入眠。(17:00)トイレに起きた様だが、再び独り言を話し、一人で屋外へ出ようとした。意識障害持続。父親が対応するも父親のことも解らない状況になり、自家車にて当院受診。(17:49)当院救急外来受診。JCSでレベル10の意識障害あり。インフルエンザ脳症を疑い、採血や髄液検査時も意味不明の発声あり。頸部硬直不明瞭だが、髄液検査や頭部CTスキャン上は異常なし。インフルエンザ迅速法で再検したが陰性(後日ウイルス抗体価HI法でベア血清でチェックしたが、抗体価変動なし)。そのまま入院しCTRX静注とマンニトール投与した。検査中も意識障害はみられ、待ち時間にもウトウトと寝ている事もあった。(20:45)病とうが上がった。意識障害は継続していた。その後就寝。(21:30)トイレに起きたが意識障害のため間に合わず、おもらしをした。その後就寝。(23:00)再びトイレに起き、この時は意識がはっきりしていた。その後就寝。 2007/2/28 (朝)起床。(8:20)意識レベルは回復。熱も36.8℃まで解熱した。 2007/3/2 (13:00)後遺症はなく軽快、退院。	異-1-119
31	B07000279	6	年	男性	異常行動	2007/3/17 2007/3/17	18:00 不明	2007/3/17	18:30~23:30	○	Yes	—	5時間	Yes	発熱持続	No	No	No	No	No	無	2007/3/17 (18:00)A型インフルエンザのためタミフル40.5mgを投与開始。(18:30~23:30)内服後興奮状態となり、室内ソファを飛び越え、対面にあるドアに激突し、顔面を強打す。異常行動発現。 2007/3/20 異常行動回復。インフルエンザ軽快。	異-2-51
32	B07012137	6	年	男性	異常行動	2006/5/24 2006/5/25 2006/5/25 2006/5/26 2006/5/26 2006/5/27 2006/5/27 2006/5/28 2006/5/28 2006/5/29	夕	2007/5/25	昼	×	—	—	—	Yes	解熱過程	No	No	—	No	No	無	2006/05/23 38.6℃の発熱。 2006/05/24 B型インフルエンザに対して、本剤20mg×2回/日処方。夕方より服用開始。 2006/05/25 (昼頃)異常行動発現(非重篤)。2階より転落。「助けて」という声に母親が見つかる。外傷は特になし。その後、意識は清明。 2006/05/29 内服を続けたが異常はみられず。朝、本剤服用後投与終了。 2006/05末 インフルエンザ軽快、回復。	
33	B07013250	6	年	男性	異常行動	2007/2/8	—	2007/2/8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	無	2007/2/8 B型インフルエンザに対して、本剤の投与を開始。1度目の服用後しばらくしてから大声を出し玄関に向かって走っていったところ母親に制止された。不明 異常行動は回復。	
34	B07013332	6	年	女性	①異常行動 ②異常行動	2007/3/21 2007/3/21 2007/3/22 2007/3/22 2007/3/23	9:00 19:00 8:00 19:00 8:00	①2007/3/21 ②2007/3/22	①23:00 ②12:30	①○ ②×	—	—	—	Yes	解熱過程	No	No	No	No	No	無	2007/3/21 (9:00)A型インフルエンザ治療の為、本剤45mg×1回の投与開始。体温:39.0℃。(19:00)本剤45mg×1/回投与。(20:00)体温:38℃。就寝。(23:00~23:05)異常行動、精神障害発現(非重篤)。就寝中、突然大声を出し、足をバタバタと動かし、暴れた。母親が、体をさすりながら声をかけると5分後におさまる。しかし、本人は目をさまさず、そのまま睡眠に入った。 2007/03/22 (7:00)発熱37.5℃。目覚めは正常であったが、昨夜の事は全く記憶にない。(8:00)本剤45mg×1/回投与。 (12:30~12:40)異常行動、精神障害発現(非重篤)。就寝に入る前に、昨夜のように大声(意味不明な言葉)をだし、手足を急に動かし、暴れる。声をかけてなだめると昼寝に入る。(19:00)本剤45mg×1/回投与。その夜は副作用はなかった。 2007/03/23 (8:00)本剤45mg×1/回投与し、体温35.8℃となり、相談(医師と患者さんの母として、本剤服用を中止する。インフルエンザの転帰:軽快・回復	
35	B07013397	6	年	男性	譫妄 異常行動	2007/4/22	—	2007/4/22	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	無	2007/4/22 (昼)来院。インフルエンザに対して、本剤の投与を開始。帰宅しすぐ服用。服用後もなく、うわごとを言う、走り回るといった異常行動が発現。その後、本剤の投与を中止。うわごとを言う、走り回るといった異常行動は回復。	
36	B07013398	6	年	男性	異常行動	2007/3/3 2007/3/3	14:00 21:00	2007/3/3 2007/3/4	15:00 0:00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	無	2007/2下旬 湿性の咳出現。 2007 発熱する2~3日前、夜寝ているときに不随意運動があった。(ピク・ピク) 2007/3/1 発熱する前日の夜、おびえたように、大声で「ママ、ママ」と探した。 2007/3/2 (夕方)かなりぐったりした様子が見られ、その後38℃の発熱あり。この頃から、いつもの熱の出方ではないような、少しもうろうとしているような様子があった。 2007/3/3 (朝)38℃の発熱あり。(13:00頃)当院受診時、39.9℃に上昇。インフルエンザA型の診断がつき、本剤処方。 この頃より、すぐぐっすり寝ている様子あり。声をかけても、なかなか返事をせず、目を開けない様子があった。(14:00頃)帰宅後すぐに本剤服用。(15:00頃)異常行動発現(非重篤)。突然、服用した薬や、アクリアスなどを全て嘔吐。この間も、ずっと傾眠しているようで、妄想のような意味不明の言動も見られた。嘔吐後、まもなく30秒から1分弱の痙攣を起こす。間代性で眼球の左偏位があり、チアノーゼも出たが、すぐに落ち着き眠り始めた。意味不明の言動と深い眠り、何度も呼ばないと返事をしなかったり、返事はしても目を開けなかったり、目の焦点が定まらなかつたりした。(夜)発熱と頭痛あり。(21:00)2回目の本剤服用。 2007/3/4 (0:00)2回目の本剤服用から3時間後、それまで寝ていたのに突然飛び起き、まるで飛び込むように階段の方へかけていった。保護者が追いかけて止めた。その時はもう目が泳いでしまい、保護者の言うことはまったく耳に入らず、まるで何かにとりつかれているようだった。トイレをさせても変なところへかけてしまい、手を洗おうとしても、ただ手が震えていて動けないような状態でおさえつけて落ち着くまでに5~10分かかった。その後、また寝た。その時の状況は本人は覚えていなかった。 2007/3/5 熱も下がりがり元気になってきたが、3回ほど声をかけないと返事をしない、焦点が定まらない症状は続いた。 2007/3/6 普通の状態になった。	